

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地		
織田ファッション専門学校		昭和51年9月1日		鈴木 貴子		〒 164-0001 (住所) 東京都中野区中野5-32-8 (電話) 03-3228-2230		
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地		
学校法人織田学園		昭和40年10月21日		鈴木 貴子		〒 164-0001 (住所) 東京都中野区中野5-32-8 (電話) 03-3228-2111		
分野	認定課程名		認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度	
服飾・家政	ファッションビジネス専門課程		ファッションビジネス科		平成20(2008)年度		令和 5(2023)年度	
学科の目的	ファッションビジネスのリテールに関する専門知識、技術を学び、実店舗での販売実務と、ECサイトの運用といった多面的な能力を持つ人材を育成することを目的とする。							
学科の特徴 (取得可能な資格、 中退率 等)	接客シミュレーションとSNS活用で、リアルとオンラインのどちらにも強いファッションビジネスを学ぶことができる。 【取得可能な資格】ファッションビジネス能力検定、ファッション販売能力検定、ファッション色彩能力検定、カラーコーディネーター検定							
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技
2	昼間	※単位時間、単位いづれ かに記入	1,810 単位時間	682 単位時間	単位時間	1,128 単位時間	単位時間	単位時間
			単位	単位	単位	単位	単位	単位
生徒総定員	生徒実員(A)		留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)	中退率		
60 人	37 人		1 人		0 %	11 %		
就職等の状況	■卒業生数(C)		21		人			
	■就職希望者数(D)		11		人			
	■就職者数(E)		11		人			
	■地元就職者数(F)		10		人			
	■就職率(E/D)		100		%			
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		91		%			
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		52		%			
	■進学者数		10		人			
	■その他							
	(令和 6 年度卒業生に関する令和 7 年 5 月 1 日時点の情報)							
■主な就職先、業界等 (令和6年度卒業生) アパレル業界(販売)、自営業								
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価： ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体： 受審年月： 評価結果を掲載した ホームページURL							
当該学科の ホームページ URL	https://fashion oda.ac.jp/academics/business/							
企業等と連携した 実習等の実施状況 (A、Bいずれか に記入)	(A：単位時間による算定)							
	総授業時数		1,810 単位時間					
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		16 単位時間					
	うち企業等と連携した演習の授業時数		単位時間					
	うち必修授業時数		1,810 単位時間					
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		16 単位時間					
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		単位時間					
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		単位時間					
	(B：単位数による算定)							
	総単位数		単位					
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数		単位						
うち企業等と連携した演習の単位数		単位						
うち必修単位数		単位						
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数		単位						
うち企業等と連携した必修の演習の単位数		単位						
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)		単位						
教員の属性 (専任教員に ついて記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等において その担当する教育等に従事した者であって、当該専門課 程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六 年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)					1 人		
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)					3 人		
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)					0 人		
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)					0 人		
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)					1 人		
	計					5 人		
	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の 実務の能力を有する者を想定)の数					4 人		

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

本校カリキュラム検討会議で教育理念に基づいた教育課程を立案し、企業の意見や要請等を反映させ、実践的かつ専門的な職業教育に適した教育課程を編成する。
2年間を通しファッションビジネス概要を理解した上で、産学連携の実践的な教育を行うことを基本方針とする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

委員会は校長の下に組織され、教育課程への意見や提案をし審議する教育課程編成における諮問機関として位置づけられている。出された意見等についてはカリキュラム検討会議にて教育課程に反映できるかどうか検討している。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
増田 恵一	一般社団法人ファッション産業技術継承協会 代表理事	令和7年4月1日 ～令和8年3月31日(1年)	①
宮本 誠一	株式会社アンセム 代表取締役	令和7年4月1日 ～令和8年3月31日(1年)	③
佐藤 憲也	東宝舞台株式会社 衣裳コーディネーター	令和7年4月1日 ～令和8年3月31日(1年)	③
鈴木 貴子	学校法人織田学園 理事長 織田ファッション専門学校 校長	令和7年4月1日 ～令和8年3月31日(1年)	—
森田 豊樹	織田ファッション専門学校 教員	令和7年4月1日 ～令和8年3月31日(1年)	—
親松 俊介	織田ファッション専門学校 教員	令和7年4月1日 ～令和8年3月31日(1年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (8月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和6年8月28日 14:30～15:30

第2回 令和7年3月24日 15:00～16:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

教育にAIをどの様に取り入れていくべきかを議論。企画のアイディア出しの段階でAIにいくつか案を出してもらい、そこから絞り込む作業を学生にやらせコミュニケーションの時間を多くとるなど、『土台作り』のためにAIを活用することはできるとのご意見をいただいた。

ファッションビジネス専門課程が目指しているところは販売職なので、AIに取って代われないところはロールプレイング等の授業を通して鍛えていく必要がある。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

実際の店舗での接客や運営経験がある講師から直接指導を受け、今、現場で販売員に求められている接客、ブランディング、マーケティング、SNSの活用方法等実践的かつ専門的な技術と知識を学び、ファッション販売の即戦力となる人材を育成することを基本方針としている。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

店舗運営を熟知している方に講師を依頼し、販売員として求められているSNSを活用した接客や、販売スキル、マーケティングを実践に近い形で講師指導の下、実習を行う。授業では発表を繰り返す行うことで、プレゼン能力やコミュニケーションスキルを養うだけでなく、その都度講師からのアドバイスや指導を受けることにより、即戦力となりうる人材育成を目指している。実習後には、講師からの評価を踏まえ、担当教員が成績評価を行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
ブランド研究Ⅱ	2. 【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	アパレル流通企業の方を講師としてブランドコンセプトイメージを学び、企業イメージに合せたステッカーをデザイン制作する。ブランド研究の仕方やブランドに対するイメージ力とデザイン力を企業講師の指導と評価を受けながら習得する。	株式会社ウィゴー
SNSブランディング	2. 【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	店舗とオンラインでの販売業務に携わっている方を講師に招き、販売員に必要なSNS活用方法を講師からアドバイスと評価をもらいながら実際に撮影・動画編集・発表を繰り返し、実践的なスキルを習得する。	株式会社オンワード樫山

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

アパレル関連企業及び繊維産業界の実践的なノウハウを学生するため、及び学生への指導力向上のため、教員研修規程に則り外部の研修を受け、教員の質向上を図ることを基本方針としている。毎年各教員が研修課題を設定し、年度の初めに校長はじめ本校専任教員全員が参加する報告会にて発表の機会を設けている。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	第24回技術研究会	連携企業等:	日本モデリスト協会
期間:	令和6年4月20日	対象:	教員
内容	アパレル関係者よりセミナーと会報により技術的疑問を解決するための指導を受ける。		
研修名:	弥生会	連携企業等:	弥生会
期間:	令和6年4月～(毎月1回)	対象:	教員
内容	パターンや縫製の疑問点などをセミナーを通して学ぶ。		
研修名:	生成AIの教育利用について	連携企業等:	東京都専修学校各種学校協会
期間:	令和7年3月17日	対象:	教職員
内容	AIの進化とリテラシーについて、AIを教育に取り入れていくための実例等を知る。		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	社会と教育をつなげる実践型教育に学ぶ	連携企業等:	全国専修学校各種学校
期間:	令和6年11月28日	対象:	教員
内容	社会と学校をつなぐ実践型教育実例として、高-専、高-大、高-社 連携の現場のリアルを知る。		
研修名:	重要・経営課題研修～非認知能力の育成～	連携企業等:	東京都私学財団
期間:	令和6年12月17日	対象:	教職員
内容	非認知能力の具体的な要素や、学校現場で重視される背景、能力を伸ばす方法について、最新の事例を例に教職員が一層の指導向上を図れるよう学ぶ。		
研修名:	人権教育研修～学校における合理的配慮～	連携企業等:	東京都私学財団
期間:	令和6年12月23日	対象:	教職員
内容	合理的配慮の提供が義務化される中で学校に求められる対応すべき事項について、個に応じた学びが保証される環境を工夫できるよう理解と技術の向上を目指す。		

(3) 研修等の計画		
①専攻分野における実務に関する研修等		
研修名:	新ものづくり研究会	連携企業等: アズマ株式会社
期間:	令和7年	対象: 教員
内容	連携企業等との研究を通して繊維商社による展示会にて新素材を使用しての提案をする。	
研修名:	技術研究会	連携企業等: 日本モデリスト協会
期間:	令和7年	対象: 教員
内容	連携企業等との研究を通して繊維商社による展示会にて新素材を使用しての提案をする。	
研修名:	弥生会	連携企業等: 弥生会
期間:	令和7年4月～(毎月1回)	対象: 教員
内容	パターンや縫製の疑問点などをセミナーを通して学ぶ。	
②指導力の修得・向上のための研修等		
研修名:	学生カウンセリング研修	連携企業等: 東京都専修学校各種学校協会
期間:	令和7年6～8月(2回)	対象: 教員
内容	学生カウンセリング理論・技法と学校カウンセリングのあり方等に関する研修	
研修名:	就職指導担当者研修	連携企業等: 東京都専修学校各種学校協会
期間:	令和7年8月・令和8年1月(2回)	対象: 教員
内容	多様化する学生の就職活動について～発達障害・グレーゾーン学生の就職活動～	
研修名:	留学生に対する生活指導等講習会	連携企業等: 東京都専修学校各種学校協会
期間:	令和7年7月	対象: 教職員
内容	留学生の在籍管理等に関する指導の徹底を図る。	

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

自己評価報告について学校関係者から評価と助言を得て、本校の教育活動、その他の学校運営の課題等を明確化し、客観性と透明性を高めるとともに、改善を行い学校運営と教育の質向上を図ることを基本方針とする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	理念・目標・育成人材像は定められているか
(2)学校運営	教育理念・目標に沿った運営方針が策定されているか
(3)教育活動	教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針が策定されているか
(4)学修成果	生活支援の充実化は図れたか
(5)学生支援	退学率の客観的数値(前年度比較)は改善したか
(6)教育環境	施設・設備は、教育の必要性に十分対応できるよう整備されているか
(7)学生の受け入れ募集	数値目標(入学生数60名)は達成できたか
(8)財務	経営感覚の教職員間での共有は図れたか
(9)法令等の遵守	コンプライアンス意識を再確認できたか
(10)社会貢献・地域貢献	地域や地方公共団体と連携し、受託等を積極的に実施しているか
(11)国際交流	留学生受け入れ、学習・生活指導等について適切な体制が整備されているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

委員からいただいた教育環境についての意見を元に、点検・整備を継続的にを行い、必要に応じて機器の更新・入れ替えを積極的に検討していく。学生の受け入れ募集については数値目標を達成するために、授業や在校生のリアルを発信し、本校の特徴が伝わりやすいように工夫している。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和7年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
内藤 久美	株式会社 辻洋裁店	令和7年4月1日 ～令和8年3月31日(1年)	企業等委員
松野 仁美	スタイリスト	令和7年4月1日 ～令和8年3月31日(1年)	卒業生
山野 晴雄	多摩地区高等学校進路指導協議会	令和7年4月1日 ～令和8年3月31日(1年)	有識者委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://oda.ac.jp/about/reports/>

公表時期: 令和7年6月1日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

ホームページやパンフレットによる教育活動や取り組み等の紹介や財務状況などの学校運営について、高校生、在校生、保護者、卒業生、関係者、企業等に最新情報を提供し、学園に対する理解を深めていただくとともに学校運営の透明性を確保し、さらなる企業等との連携および協力の推進を図ることを基本方針とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	校長名、所在地、連絡先、odaの強み、理念・方針、学園沿革
(2)各学科等の教育	学科紹介、主な履修内容、主な時間割例、入学定員、検定受験サポート
(3)教職員	校長メッセージ、教員一覧
(4)キャリア教育・実践的職業教育	企業コラボレーション、就職支援、就職状況・就職先一覧
(5)様々な教育活動・教育環境	キャンパスレポート、年間スケジュール
(6)学生の生活支援	奨学金・教育ローン、住まいのサポート
(7)学生納付金・修学支援	奨学金・教育ローン、学費
(8)学校の財務	貸借対照表、事業活動収支計算書、財産目録、監査報告書
(9)学校評価	自己評価報告書、学校関係者評価報告書
(10)国際連携の状況	外国人留学生募集要項
(11)その他	ファッション学生にインタビュー！、oda fashion Vlog、卒業生VOICE

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://fashion.oda.ac.jp/>

公表時期: 令和7年6月1日

授業科目等の概要

(ファッションビジネス専門課程 ファッションビジネス科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
1	○			服飾造形Ⅰ	アパレル業界の仕事及びそれに関わる洋服の知識を得る。スカート・パンツ・シャツの制作を通してパターン・デザインと生地の相性と取扱い・ディテールなどについて学ぶ。	1 年 通 年	240		△		○	○		○		
2	○			カラー	色彩の体系や色彩心理などの色彩基礎、色彩理論、配色方法を学ぶ。ファッション色彩能力検定3級の資格を目指す。	1 年 通 年	50		○		△	○			○	
3	○			FB概論Ⅰ	ファッション業界全体の概要を分野ごとに解説を通じて学ぶ。ファッションビジネス能力検定3級の取得を目指す。	1 年 通 年	60		○		△	○		○		
4	○			西洋服装史	衣服の起源と古代から現代までの西洋服飾の変遷を映像を使用しながら解説。文化、芸術、宗教など様々な歴史との関連を持つ装いを理解する。	1 年 前 期	30		○			○			○	
5	○			ディスプレイⅠ	ディスプレイの基本知識とテクニックを習得する。実習で体験することでテクニックを理解する。	1 年 前 期	30		△		○	○			○	
6	○			スタイリングAI-Ⅰ	基礎から実践までスタイリングスキルを身につけ、自分のスタイルを確立し、様々な媒体パターンにそって提案力を鍛える。AIを駆使しスタイリングを考える人材を目指す。	1 年 通 年	60		△		○	○		○		
7	○			英会話Ⅰ	日常生活など身近で簡単なことから英語が使えるようにし、英語での接客・対応ができるように学ぶ。	1 年 通 年	50				○	○			○	
8	○			ロールプレイングⅠ	校内外のロールプレイング大会入賞レベルを目指した接客の基礎、コミュニケーション能力を身につける。	1 年 後 期	30				○	○			○	
9	○			オフィスPC	Word、Excel、PowerPointを使用したPC基礎を学ぶ。Illustrator、Photoshopを用い、グラフィックの基礎を学ぶ。	1 年 通 年	60				○	○			○	
10	○			販売論Ⅰ	接客の基礎、社会コミュニケーション能力の向上及びブランド研究やコンセプト研修を通し、理論と実践をバランスよく学びながら、接客スキル、販売員としての基礎知識、実践的なコミュニケーション能力を習得する。	1 年 前 期	30		○			○			○	
11	○			ブランド研究Ⅰ	ブランドの企画方法を学び、自分のブランドらしさと様々なテーマを掛け合わせてオリジナル企画の作り方を体得する。	1 年 通 年	60		△		○	○		○		
12	○			マテリアルⅠ	アパレルでの仕事に必要な不可欠な素材に関する知識を習得する。主に天然繊維と糸に関する知識について学ぶ。	1 年 後 期	30		○		△	○		○		

13	○		コーディネート I	ファッション雑誌制作の一連の仕事を企業の担当者の指導、評価のもとに実体験し、スタイリストとしての仕事を学ぶ。	1年 通年	50		△		○	○			○	
14	○		マーケティング	マーケティングの概要、手法の種類を理解し、実際の企業のマーケティング例を知る。	1年 通年	60		○		△	○			○	
15	○		FB論 I	アパレル業界の仕事及びそれに関わる洋服の知識を得る。ファッションビジネス能力検定の3級合格を目標とする。	1年 前期	10		○			○			○	
16	○		特別講義 I	現場で活躍する講師を迎え、ファッション業界の最新の動向を知るとともに、普段の授業だけでは学ぶことのできない幅広い知識を身につける。	1年 通年	20		○			○			○	○
17	○		服飾造形 II	1年次の基礎知識をベースにアパレル製品・アパレル素材の基礎知識を広げる。	2年 通年	240		△			○	○		○	
18	○		FB概論 II	ファッションビジネス業界の概要理解を踏まえ、アパレルメーカーに属する専門職種の仕事内容の理解、求められる人材像を知りそこへ近づくためのスキルを知る。	2年 通年	60		○		△	○			○	
19	○		ディスプレイ II	ディスプレイテクニックの応用力を習得。企画～実習を通し創造力と計画性を養う。	2年 通年	50		△			○	○			○
20	○		スタイリング AI- II	基礎から実践までスタイリングスキルを身につけ、自分のスタイルを確立し、様々な媒体パターンにそって提案力を鍛える。AIを駆使しスタイリングを考える人材を目指す。	2年 通年	60		△			○	○		○	
21	○		英会話 II	日常生活など身近で簡単なことから英語が使えるようにし、英語での接客・対応ができるように学ぶ。	2年 通年	50					○	○			○
22	○		品質管理	品質管理という職種や品質の定義、アパレル製品の製造工程などについて理解する。	2年 後期	30		○				○		○	
23	○		卒業制作	現代ファッションビジネスの状況を理解し、今後の新しいファッションビジネススタイルの提案とSDG'sの開発目標に対して、ファッションの力で解決する方法について論文を制作し発表する。	2年 通年	60		△			○	○		○	
24	○		ロールプレイング II	接客の上級スキルを習得し、個々の強みを活かした高度なロールプレイングを実践する。校内外の大会で優秀な成績を目指すとともに、現場での即戦力を目指す。	2年 通年	50					○	○			○
25	○		ヴィジュアルデザイン	CGソフトの基本操作及び応用を習得。グラフィックデザインの基礎・考え方を学び、課題を通してイメージを具現化できる技術の習得を目指す。	2年 通年	50					○	○			○
26	○		販売論 II	販売員としての心理的販売戦略、常に旬な情報の得方や接客方法のノウハウを軸に言葉選びやSNSマーケティングを含めたスキルを得る。	2年 通年	60		○				○		○	

27	○		BVMD I	マーケティングにおいてマクロ的な街やエリアの潮流と、トレンド等のミクロな視点を、商業施設や路面店という立地戦略とともに広い視点で学ぶ。	2年 通年	60	○			○			○	
28	○		ブランド研究Ⅱ	企画やブランドディレクターを目指すための力を身につける。個々の好みだけでなく、他テイストへの視野を広げ、個性やスキル、ブランドらしさを引き延ばす。	2年 通年	60	△		○	○		○		○
29	○		マテリアルⅡ	アパレルでの仕事に必要な素材に関する知識を習得する。主に化学繊維や糸、布地、織物、その他のアパレル素材について学ぶ。	2年 前期	30	○		△	○		○		
30	○		SNSブランディング	ヘアメイク、フォトワーク、プロモーションを学び、SNSを使用したPR方法を実技で学ぶ。	2年 後期	60	△		○	○			○	○
31	○		特別講義Ⅱ	現場で活躍する講師を迎え、ファッション業界の最新の動向を知るとともに、普段の授業だけでは学ぶことのできない幅広い知識を身につける。	2年 通年	20	○			○		○	○	
合計					31	科目	1810 単位（単位時間）							

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件： すべての課題を提出すること。各教科の出席が2/3以上であること。各教科の成績がC以上であること。所定の期日までに学費等を納めていること。		1 学年の学期区分	2 期
履修方法： 必修科目は全学生が履修する。自由選択科目は任意で履修する。		1 学期の授業期間	16 週

（留意事項）

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。